

特定外来生物

# ナガエモウセンゴケ

真正双子葉類 モウセンゴケ科 *Drosera intermedia*

生態系被害防止  
外来種リストの区分

重点対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

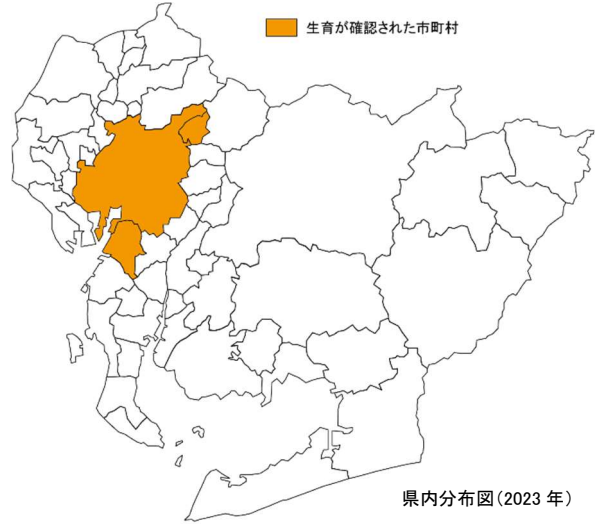
## 基礎情報

### 原産地

- ・北アメリカ北部及び東部、イギリスを含むヨーロッパ

### 現在の分布

- ・世界では、ヨーロッパからトルコ、北アメリカ東部からブラジル東部と、アフリカ西岸を除き大西洋を取り巻くように広く分布する。
- ・国内では、本県のほか岡山県、千葉県で確認されている。
- ・県内では、名古屋市、尾張旭市、東海市の湿地で確認されている。



### 侵入の経緯

- ・国内では、2004 年度までに岡山県や千葉県で確認されている。
- ・愛好家が湿地に投げ込んだものと考えられる。靴に着いた泥などから別の湿地に移動することもある。
- ・本県では、2021 年時点で少なくとも 7 箇所以上の湿地で確認され、分布を拡大している。

### 形態

- ・湿生の多年生草本で食虫植物。
- ・茎は短く、地際から葉を放射状に出す。成長するに従い茎が伸長し、植物体全体が立ち上がって高さ 10cm 以上になる。茎の上部には多数の長い柄(名前の由来でもある)をもった葉をつけるが、茎が伸長すると茎の下部の古い葉は枯れる。ある程度伸長すると自らの重みで倒れ、泥上に匍匐する形状になる。
- ・葉はさじ形。葉身は長さ 10mm、幅 5mm ほどで、葉柄は長さ 3cm。葉身には粘液を出す繊毛が多数つき、虫を捕らえる。
- ・花茎は直立し、高さ 5cm ほど。1~5 本程度の花茎を出し、直径 4mm の白色の 5 弁花を穂状につける。
- ・花後は多くの種子をつける。



若い個体  
(モウセンゴケとの  
識別は難しい)



生育環境

・水苔の生えるような湿地に生育し、モウセンゴケよりも明るい環境を好む。

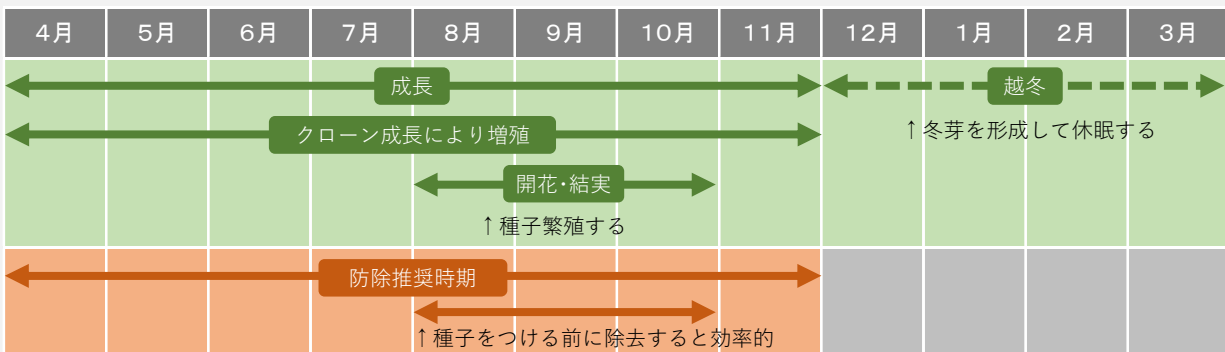
生態・ライフサイクル

- ・開花期は8月上旬～10月下旬(岡山県の事例)で、在来のモウセンゴケ類よりも長い。長期にわたって開花し、種子も多くつくる。
- ・成長に従い植物体全体が立ち上がる形状のため、5cm以上の水深でも生育が可能だが、乾燥には弱い。
- ・種子の発芽能力は低く、栄養繁殖(クローン成長)により個体数を増加させるため、根や葉の断片などからよく再生する。
- ・環境の良い湿地に侵入すると、在来のモウセンゴケ類よりも旺盛に繁殖する。



ナガエモウセンゴケの侵入した湧水湿地

【ライフサイクル・防除推奨時期】 注:生活史については開花時期以外の情報が少ないため、不確実な点がある。



類似種との識別ポイント

- ・湧水湿地に生育する類似種として、モウセンゴケ(在来種)、トウカイコモウセンゴケ(在来種)がある。
- ・本県にはコモウセンゴケ(在来種)も生育するが、分布は現在のところ知多半島と豊明市に限られており、湧水湿地以外の場所に見られることが多い。

モウセンゴケ (在来種)	トウカイコモウセンゴケ (在来種)
 <p>②葉はお玉形、葉柄は明瞭</p>  <p>③花は白色</p>	 <p>②葉はしゃもじ形、葉柄は不明瞭</p>  <p>③花はピンク色</p>
<p>①茎は短く、伸長しない。</p> <p>②葉はお玉形で、はっきりした柄がある。</p> <p>③白色の花をつける。</p>	<p>①茎は短く、伸長しない。</p> <p>②葉はしゃもじ形で、はっきりした柄はない。</p> <p>③ピンク色の花をつける。</p>

- 哺乳類
- 鳥類
- は虫類
- 両生類
- 魚類
- 昆虫類
- 甲殻類
- クモ類
- 貝類
- 植物

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

## 影響・被害

- ・繁殖力が強く、在来のモウセンゴケ類と競合し、生育場所を奪う。在来のモウセンゴケ類が生育可能な湿地環境が減少しているため、影響が大きい。
- ・様々な環境条件に対する適応力が大変高いため、いったん植え込まれば、高い確率で定着すると考えられる。
- ・モウセンゴケ類は雑種を作ることが可能で、ナガエモウセンゴケと在来種のモウセンゴケとの間に交雑個体を作り出し、遺伝子汚染が生じるおそれがある。
- ・除去作業が行われている湿地では、作業者による湿地の踏みつけや抜き取りなどによる湿地生態系へのダメージが問題になっている。



湿地に広がるナガエモウセンゴケ

## 生育・被害の確認方法

- ・本種の生育の可能性のある湿地を踏査し、生育個体を目視により確認する。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や湿地保全活動を行っている団体、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。

## 防除方法

- ・侵入の初期、個体数が少ないうちに除去することが有効である。
- ・手作業による除去が望ましい。

### 推奨時期

- ・除去は冬季以外実施可能だが、サイズの小さな個体を漏らすことなく見つけて完全に除去することは困難なため、植物体がある程度大きく成長し、種子をつける前(8~10月)に除去することが望ましい。

### 具体的な防除方法

- ・他の生物に対しての影響が小さい手作業で除去する。茎や根が残っていると容易に再生するため、根の抜き取りや表土ごと剥ぎ取るようにする。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄(各自治体の基準に従う)する。



手作業による抜き取り

### 【主な防除方法】

区分	方法	概要
物理的防除	抜き取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作業により抜き取る。またはスコップや根掘り等を用いて表土ごと剥ぎ取り除去する。技術的に実施が容易。</li> <li>・根や葉の断片から再生するため、これらを残さないよう留意する。</li> <li>・地下部(根)ごと除去しないと再繁茂のおそれがある。</li> <li>・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。</li> <li>・1度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数年継続する必要がある。</li> </ul>

## 作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意（植物の場合は完全に枯死させる必要がある）。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ①小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ②防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・栄養繁殖により植物体の断片からでも増殖するため、断片の取りこぼしがないようにする。作業に使用した道具、長靴などに種子や断片が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・除去した個体は袋に詰める。種子をつけている場合は、袋の外にこぼれ落ちないように留意する。
- ・種子は埋土種子として休眠するものもあるため、作業後も定期的に確認を行い、再生が認められた場合は直ちに取り除く。
- ・湧水湿地はデリケートな環境であり、在来モウセンゴケ類や微小なミミカキグサ類など、湿地固有の希少な動植物が生息生育するため、作業による踏みつけや過剰な攪乱の防止に注意する。



長靴の洗浄



湧水湿地に生育するミミカキグサ類

## 必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き（市町村単独の防除の場合）

## 出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束足物 > ナガエモウセンゴケ（国立研究開発法人 国立環境研究所）  
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81540.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集（環境省 自然環境局）<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物（環境省 自然環境局）[https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp\\_shokubutsu.pdf](https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf)
- ・特定外来生物等の選定作業が必要と考えられる外来生物に係る情報及び評価（案）（爬虫類・両生類・魚類・植物）. 第10回特定外来生物等専門家会合（植物）資料4（環境省 自然環境局,2016）
- ・岡山県における外来食虫植物の侵入状況-その3-ナガエモウセンゴケの生態および引き抜き除去について-. 岡山県自然保護センター研究報告 19: 29-41.（片岡博行・西本孝,2012）
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021（愛知県,2021） p.152 ナガエモウセンゴケ（増田理子・瀧崎吉伸）

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物